



2019-20 年度地区方針「グローバルに考え 地域社会とつながり ロータリーを成長させよう」

本日 第2356回 2019年11月22日(金) No. 2238

本日のプログラム Today's Program 卓話担当者:名誉会員 森 和実尾張旭市長
 点 鐘 12:30 卓 話 者: ”
 ロータリーソング「四つのテスト」 演 題:「市長と議員」

前回 第2355回 2019年11月15日(金) 記 録

- 出席者: 会員 25 名中 16 名出席 出席率 64.00%
- 来訪者: 地区ポリプラス/職業研修チーム委員会 副委員長 青山 貴彦さん

会長あいさつ 加藤 清久



先週は技術屋さんとして尊敬している本田宗一郎について話しましたが、今週は、人間として尊敬している宮沢賢治について話します。

彼は、岩手県の花巻で生まれ、盛岡高等農林学校を優秀な成績で卒業、花巻農業高校の教諭、農業に従事、農業指導し農民の生活向上に尽力した方です。この間、作家として詩・童話をノートやメモに残したが、結核のため37才で生涯を閉じました。彼の死後、親族の手で詩や童話がまとめられて出版され、世に出るきっかけとなりました。彼の「雨にも負けず」の詩には、実は、モデルになる人がいて、彼も、その人を尊敬し、人生をかけて自分もこのような生き方をしようと努力したようですが、志半ばで世を去ることになりました。私は、宮沢賢治という人を深く知りませんが、「雨にも負けず」の作品に込められた思いは深い感銘を覚えるもので、常々、このような生き方をしたいと考

えておりました。

ロータリーの奉仕の精神、「超私の奉仕」、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」は、相手に奉仕すれば回り回って自分も報いられるという互惠の関係ですが、彼の「雨にも負けず」の作品に込められた精神は、若干、滅私奉公の感があります、しかし、いずれにしても、奉仕の尊い精神は、生涯をかけて見習い実践してゆきたいと心に秘めているところです。

最後になりますが、詩の全文を掲載して今週の話といたします。

「雨にもまけず、風にもまけず、雪にも夏の暑さにもまけぬ丈夫な体もち。欲はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている。一日に玄米四合と味噌と少しの野菜をたべ、あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聴きしわかり、そして忘れず。野原の松の林の蔭の小さな茅葺きの小屋にいて。東に病気の子もあれば、行って看病してやり。西に疲れた母もあれば、行ってその稲の束を負い。南に死にそうな人あれば、行って怖がらなくてもいいといい。北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめろといい。日照りのときは涙を流し、寒さの夏はオロオロあるき。みんなにデクノボーと呼ばれ、褒められもせず、苦にもされず、そういうものに、私はなりたいたい。」

ロータリー財団月間

	11月29日(金)	12月6日(金)	12月13日(金)	12月21日(土)
例 会 予 定	休会 (定款による)	年次総会 卓話担当者:古橋エツ子国際奉仕委員長 卓話者:森井 晴生さん 演題:「ラオスの現況と海外実習制度について」	卓話担当者:IM・50周年準備委員会 卓話者:箕輪 IM・50周年準備委員長 演題:「クラブフォーラム」	年忘れ家族会 (12/20 振替) 於:名古屋国際ホテル 受付:17:30 点鐘:18:00

幹事報告

- ・11/2(土)秋季米山奨学生学友合同研修会 於伊賀方面 加藤会長、山田地区委員長 出席
- ・11/3(日)尾張旭市子ども会連絡協議会主催 ミニスポーツ大会 於新池交流会 ふらっと菊田青少年奉仕委員長 出席
- ・11/7(木)尾張旭市民ゴルフ大会実行委員会 於尾張旭市中央公民館 井田実行委員 出席
- ・11/9(土)10(日)2019-20年度 地区大会 於ホテルナゴヤキャッスル 加藤会長 他 16名 出席
- ・11/10(日)IM試食会 於キャッスルプラザ 加藤会長 他 16名参加

【回覧資料】

- ・尾張旭市子ども会連絡協議会主催 ミニスポーツ大会協賛の御礼と結果
- ・尾張旭市観光協会より、紅茶フェスティバル協賛の御礼とパンフレット
- ・福島県富岡町立幼・小・中学校様からの支援御礼のお手紙
- ・名古屋城北ロータリークラブ 名古屋城例会案内

ニコボックス

○本日は卓話でお邪魔しました。つたない話で申し訳ありませんがよろしくお願ひいたします。

瀬戸 RC 青山 貴彦さん

○VTT 副委員長青山貴彦さん、ようこそいらっしやいました。財団のお話をお願いします。

加藤 清久さん

○地区より青山貴彦様をお迎えして。卓話を楽しみにしております。

飯田 幸雄さん、岡本 和士さん、桜井 雅博さん
谷口 亜弥さん、西尾 輝久さん、森 康美さん
森井 晴生さん、山田 直樹さん

○地区大会、無事終了しました。橋本氏と大村知事のやりとりが良かったです。 加藤 清久さん

卓話



「ロータリー財団の多様性」

地区ポリオプラス／
職業研修チーム委員会

副委員長

青山 貴彦

瀬戸クラブから参りました青山です。

現在地区のポリオプラス VTT 委員会の副委員長をしております。今月はロータリー財団月間という事で『ロータリー財団の多様性について』というタイトルでお話をさせていただきます。

財団の正式名称は The Rotary Foundation of Rotary International という事で国際ロータリーのロータリー財団というのが正式名称です。慈善的、教育的目的のためにのみ運営する、と規定されております。世界本部はアメリカのエバンストンにあり、協力財団が、日本、オーストラリア、ブラジル、カナダ、ドイツ、インド、イギリスの7か国に設けられております。ロータリー財団の使命は、ロータリ

アンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。昨今のはやりでいえばワンチーム、という事になろうかと思いますが、ここではワンロータリーとなっています。国際ロータリーとロータリー財団は独立した法人ですが、理念上も、実際上も、ひとつのロータリーとして機能しています。すなわちロータリー財団はロータリーの使命を達成するための手段であると言う事ができます。そしてロータリー会員は、会費を通じて国際ロータリーを支援し、寄付を通じてロータリー財団を支援していただいている、という事です。

財団は1917年日本では大正6年に設立されております。アーチフランクが世界でよいことをするために基金を作る事が極めて適切である、と言われたようですが、徐々に大きくなってきたロータリーの資金管理団体としての役割と、寄付を税制上メリットがあるようにする仕組み作りのため別組織が必要だったともいわれております。

ロータリー財団の新しいプログラムとして、未来の夢計画がございますが、この計画を当時の委員長として立案策定したのが、先般名古屋にもお越し頂いた現 RI 会長であるマークマローニーさんです。次にロータリー財団の財務です。財団は国際ロータリーの財布役、およそ10倍の純資産を保有しております。そして支出ではポリオプラスが突出して多いことがわかります。

ロータリー財団が行っている主なプログラムとしては、ポリオプラスプログラム、そしてロータリー平和センター、さらに地区補助金とグローバル補助金からなる補助金プログラムがあります。

2760 地区の財団委員会の組織図の中で、資金管理委員会はルールにのっとり補助金事業の可否の判断をするところ、資金推進委員会はいわば寄付集めを推進するところ、補助金委員会委は各クラブの補助金を使った事業をサポートするところです。ポリオプラス VTT 委員会は、前半の WFF まではポリオプラスの仕事、後半は VTT の仕事が多く入ります。最後がグローバル奨学生、平和フェロー委員会で、補助金奨学生や平和フェローの募集、選考、手続き、これらのすべてを行う委員会です。

ポリオに関しては最近まで撲滅撲滅と言ってまいりましたが、この7月1日から用語が変わりまして、撲滅に変わって根絶という用語を使う事になりました。正式名称を「急性灰白髄炎(きゅうせいはいはくずいえん)」と言いますが、一般に「小児まひ」とも呼ばれます。世界の一部の国では現在もポリオの感染が起きており、5歳未満の子どもの体の自由を奪っている状があります。

我が国でもポリオと闘い根絶を勝ち取った歴史があります。1949年より各地で流行し1960年私の生まれた年にピークをむかえましたが、翌年より急速に減少しました。それは1961年6月当時のソ連より生ワクチンの緊急輸入が実現し、同7月から一か月間で1300万人超の小児に一斉投与されたからです。この後ポリオは激減し、1980年以降、野生株ウイルスによる患者発生ゼロとなりました。NIDs (National Immunization Days) といつて接種日

を決め全国的に一斉に施工するという、日本が始めたワクチンの投与方式は WHO に採用され日本はポリオ絶滅のパイオニアとなることができました。この時日本は世界から多くの支援を受けましたが、このことは決して忘れてはならないと思います。

1985年、国際ロータリーでは、ロータリー創始80周年に当たって、「ポリオ・プラス計画」を発表。さらに1988年、国際ロータリーの主導で国連による世界ポリオ根絶推進計画 GPEI が発表されました。しかし当時、ポリオ根絶は夢物語と思われていました。1988年、世界ではまだ125カ国、35万人がポリオの感染者だったからです。しかしポリオプラス計画が始まって15年後の2000年、ポリオ感染者数は99%減少しました。そして2014年には、わずか3カ国、356人という数まで減らすことに成功しました。これはいままでに類をみない、画期的な成果だったと言えると思います。

そして現在常在国といわれる国がパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの三か国です。順調に減って昨年には33名となった患者数ですが、今年に入り増えているという報告が上がってまいりました。原因としましては紛争地域であり隅々までワクチン投与が徹底できてない事もありますが、施行者の不正や汚職、虚偽報告なども後を絶ちません。我々としてはさらに監視体制を強化する必要があると考えています。

ではどうしてこんなに巨額の資金が必要なのでしょう。ワクチン単体では大した金額ではありませんが、一定の温度に保たないとワクチンは効力を失うため、常に冷えた状態に保つ必要があります。生産現場から接種される現地まで一貫して冷たく運ぶ、これがいわゆるコールドチェーンですが、この設備にかなりの資金が必要になる訳です。昨年のWFFにはジュディオングさんが一生懸命募金活動をして下さいました。今年は残念ながら台風のため中止となりましたが、来年はまたしっかりと準備して募金をつのりたいと思っておりますので、皆様もWFFにお越しいただきましたら、募金箱の前をスルーする事のないよう、ご寄付をぜひよろしくお願ひしたいと思います。

ロータリー平和センターは、持続可能な平和の構築をビジョンとして掲げ、平和構築、紛争解決、紛争予防に貢献できる平和構築者の世界的なネットワークを築くために、2002年に開始されました。現在アメリカ、デューク大学とノースカロライナ大学、日本、国際基督教大学、イギリス、ブラッドフォード大学、オーストラリア、クイーンズランド大学、スウェーデン、ウプサラ大学、タイ、チュラロンコン大学と提携しており様々な人材がこれらのプログラムにのっとり研修しています。創設から10年あまり、ロータリー平和センターは1,200人以上の人材を輩出してきました。このうち日本の地区からは40名。当地区からはなんと5名ものフェローを輩出しています。

2018年度平和フェローの辻坂文子さんは、国境なき医師団や青年海外協力隊にも参加されておられ、今回は2020年6月までスウェーデンのウプサラ大学で研修されておられます。今後はアフリカをは

じめ、アジア、中南米に新たな平和センターを設置する予定です。ロータリー奨学生の先輩には、先日残念ながら亡くなくなりましたが、もと国連難民高等弁務官の緒方貞子さんや、現在国連の事務次長である中満泉さんなどをはじめ、素晴らしい人材を輩出しております。

補助金のシステムのお話です。3年前に皆様からご寄付頂いた年次基金と恒久基金の利息は、地区活動資金(DDF)として地区に戻ってきます。地区活動資金は、地区補助金あるいはグローバル補助金として、社会奉仕、人道奉仕、VTT、奨学資金に利用することが出来ます。地区補助金は地元や海外で行う、小規模で短期の活動に活用する補助金、そしてグローバル補助金は6つの重点分野のいずれかに該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす3万ドル以上の大規模な国際的活動を支援する補助金です。いずれにしても補助金は公金ですので、当然監査が入ります。透明性は担保しておいていただきたいと思います。

グローバル補助金が使えるのは平和構築と紛争予防、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展です。これからはずれますとグローバル補助金としては通らない、という事になります。

VTTが何をおこなう委員会かという、専門家チームを海外に派遣して研修を行う、あるいは専門家チームを国内に招聘して研修を行う、この片方あるいは両方を行う事業で、職業奉仕事業であり国際奉仕事業でもあるといえます。我々は専門家のチームがそれぞれの国で研修しやすいように、先方のロータリアンと密に連絡を取り合って、そのお手つだい、サポートをする事が主な仕事です。

過去9年間のグローバル補助金を使ったプロジェクトのうち、初期の三年はパイロット期間で、実際には2013-14年度のフィリピン、ケソン市のプロジェクトから始まったといっても良いと思います。私が直接かかわりました最近2年間の事業内容を供覧します。

2017-18年度は対象が3292地区、ネパールの首都カトマンズで行われました。テーマは疾病予防と治療、2018年1月ネパールから医師看護師を含め8名が来名しました。名市大病院を中心に約8日間、テーマに沿ってしっかり研修されました。固い話ばかりではなく、夜は食事を共にしながらこのようにくつろいで談笑します。最後は一日京都見物をしていただき、帰国されました。

日本からカトマンズに向かった派遣メンバーは名市大の中村教授を中心とした精鋭8名です。2018年のゴールデンウィークをすべてこの事業に費やして頂きました。もちろん旅費と滞在費は出ますが、ボランティアなので当然日当もありません。現地へ赴き指導して頂いた皆様には本当に頭が下がる思いでした。やはり現地の衛生環境は日本の40年前ぐらいの状態だったようです。最終日近くにはシンポジウムが開かれ300名を超す参加者で大変盛況でした。

その翌年2018-19年度はマレーシアの首都クアラルンプールで行いました。テーマは院内感染の予防管理です。今年の2月に3300地区から7名が来

名され、約 10 日間にわたり名市大や西部医療センターなどで研鑽をつまれました。そして今年の GW には、日本から竹山廣光名市大名譽教授を団長とした、精鋭 8 名の派遣チームがマレーシアに向かいました。今回のチームの派遣に合わせて、大掛かりな感染のナショナルカンファレンスを催して頂く事ができました。最初の基調講演は WHO の東アジア局長のドクターローが話されましたが、東南アジアの感染症とその防御に関するとても格調が高いお話でした。日本の医師達もしっかり英語で講演され好評を博しました。基幹病院で ICU を見学しましたが、機材は日本と比較し遜色ないものでした。3300 地区の相手方のロータリーはセナワンクラブというところでしたが、そちらの例会にも参加しました。マレーシアのこの地区の王様が来られて、セナワンクラブと、我々の事業に感謝状を授与して頂きました。

今年度は一旦医療から離れまして、シャインマスクットの育成技術指導という農業をテーマにした VTT を行っています。今年の 9 月にはタイから 12 名が来名し、岡崎にあります保命園という農園で研修を受け、そして来年 2 月にはタイのチェンマイに技術者を派遣します。成果は乞うご期待、というところでしょうか。

最後に財団の方針とご寄付のお話です。年次基金の今年の目標額はお一人 150 ドル以上、ポリオプラス基金はお一人 30 ドル以上をお願いしております。現在までの尾張旭ロータリークラブの現状は、ポリオプラスは約 39 ドルと大幅に目標を超えておりますが、年次基金はまだ半分となっております。年度途中だからという事だと思っておりますが、何卒目標の 150 ドルをクリアしていただきますようお願い致します。

ご寄付の方法ですが、銀行振り込みとオンライン寄付がございます。税制上の優遇措置を受けるには、手続き画面の中で「国：日本」「通貨：円」となっていることをご確認ください。銀行振込でのご寄付と異なり寄付明細は発行されません。手続きの最後の画面を確認画面として印刷し大切に保管しておいてください。またロータリーカードではショッピング額の 0.3% がポリオへの寄付となりますので、こちらもぜひご利用をお願いしたいと思います。寄付認証に関しましても色々ございますが、詳しくはロータリー友の会の今月号をご覧ください。駆け足になりましたがこれで卓話を終わらせて頂きます。最後までご清聴ありがとうございました。

ガバナー月信11月号

国際ロータリー2760 地区 ガバナー 伊藤 靖祐

10月30日にガバナー公式訪問を終えました。地区内85全クラブの会長幹事様と懇談をさせていただき大変有意義な時間をもたせていただきました。そして公式訪問では大変な歓迎を受けましたことを感謝申し上げます。ロータリーならではのつながり (CONNECT) で皆様の人柄に触れ、各クラブ運営に感動し、そしてこの地区を盛り上げていく (INSPIRE) ことの価値をあらたに見いだせた訪問でした。

公式訪問例会前の会長幹事懇談会の中で4月の

規定審議会での採択制定案 19-35 欠席のメークアップに関する規定を改正する件、すなわちロータリークラブ定款第 12 条出席におけるメークアップ要件である例会の前後 14 日間から同年度内にする決定について、意見交換させていただきました。クラブを成長させるために各クラブでクラブの将来をデザインしてくださいという私の地区方針にもとづき、クラブ細則をこれから理事会でつめていかれると思います。ぜひ前向きに、そして 10 年後 20 年後を見据えて議論を重ねていただきたいと思います。

クラブを成長させるという定義は様々だと思いますが、その一つは会員数です。第 2760 地区のここ 5 年の会員数推移を列記します。

2014年7月1日 4770名 (内女性202名)

2016年7月1日 4745名 (内女性211名)

2018年7月1日 4838名 (内女性232名)

当地区の会員数は 2013 年頃から少しずつ回復しております。ここ 5 年間で会員数において約 20 名の増強ができたクラブが複数あります。どうして増強に成功したのでしょうか。会員減少を甘んじて受け入れている、周りの環境を自己判断し増強をあきらめているクラブがある中、会員増強に成功したクラブは、会長の強いリーダーシップのもと会員全員で (TOGETHER) 増強に努力した結果です。そこには当然戦略がありました。キャンペーンを展開したクラブもあります。

さてその戦略について RI は今年度から新たな計画を立案発表し、各クラブにも各クラブで考えた戦略の実践を促しています。RI の戦略計画はロータリーの不易流行の流行です。しかし、ロータリーの伝統や価値観を棄損するものでもディスカウントするものでもありません。その目的は、組織を強化することでロータリーの価値観を今後もずっと守ること、効果的な方策を用いることであらゆるレベルで組織を強化すること、ロータリーに参加するすべての人が有意義で価値ある経験ができるようにすること、そしてより大勢の人の暮らしと地域を良くすることです。

これから残された年度の 8 ヶ月を有効にお使いいただき、クラブ内外に衝撃 (IMPACT) を与え、輝けるクラブに成長させていただきたいと切に願います。顕著な会員増強を達成したクラブは来年 6 月の地区役員・会長幹事懇談会で表彰させていただきたいと考えております。

追記 11月1日はロータリー財団月間です。10月24日は世界ポリオデーでした。ポリオデーとロータリー財団月間の前に、当地区ではエンドポリオのためのファンレイジングを動機としたワールドフード+ふれ愛フェスタ (以下 WFF) を 7 年間続けております。本年 10 月 12・13 日に予定しておりました第 7 回 WFF は台風 19 号接近の影響で残念ながら中止となりました。中止は WFF 実行委員会での遺憾千万の決定です。10 月末に各クラブ宛てに詳細の報告をさせていただきましたが、ロータリアン皆様のご理解とご協力をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。